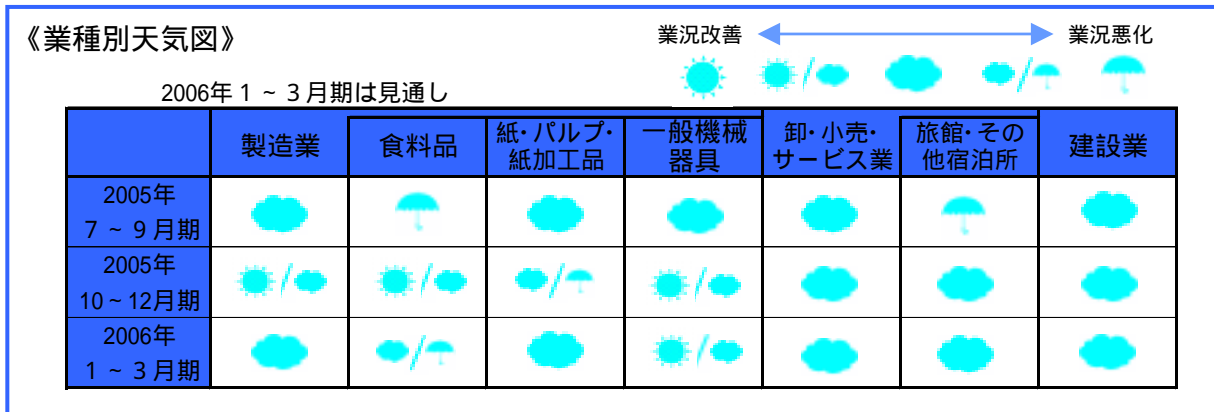
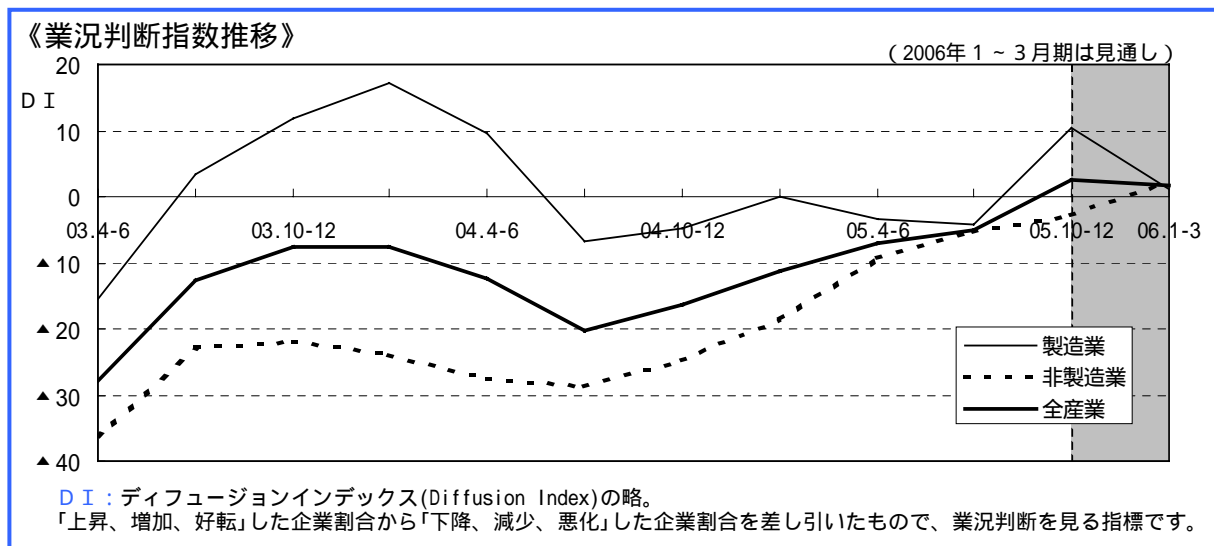


業況概要(自社)

～ 製造業D Iが大幅改善、全体のD Iもプラスに転じる～

静岡県東部地域における2005年10～12月期の業況判断D Iは、全産業で2.6(前期▲5.0)と改善傾向が続き、全産業ベースでD Iがプラスとなった。業種別では、製造業が10.5(同▲4.3)と改善され、04年4～6月期以来のプラスに再浮上、全体のD I上昇をも下支えしている。一方非製造業では、建設業は▲9.1(同▲8.9)と停滞しているが、卸・小売・サービス業が0.0(同▲3.9)と改善に転じた結果、全体でも▲2.9(同▲5.4)と引続き改善を示している。



《調査の概要》

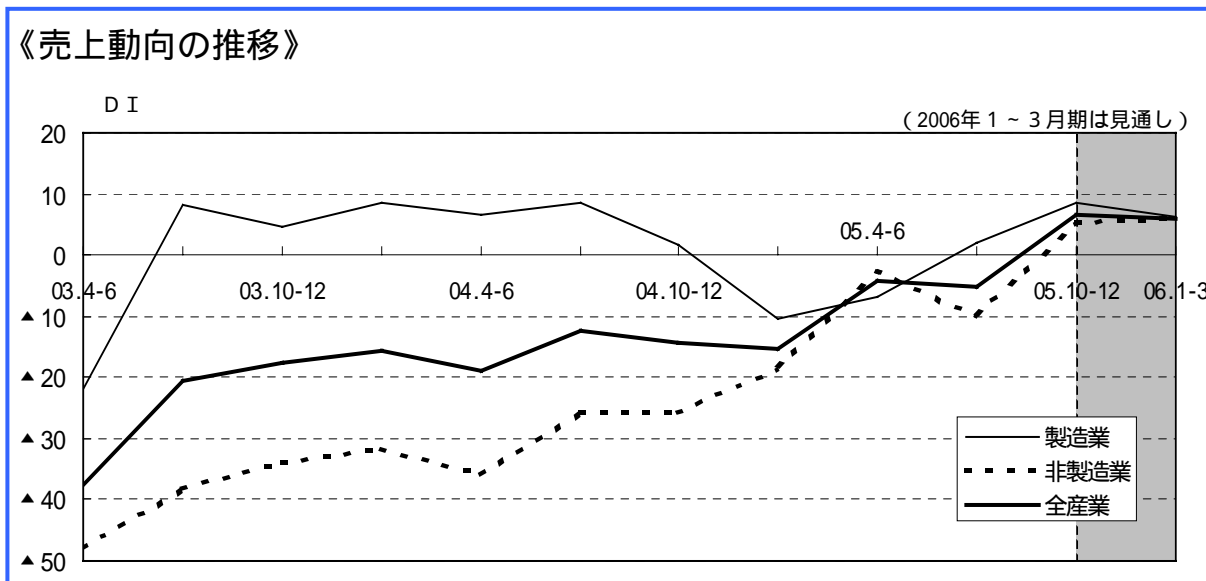
- | | |
|--|--|
| 1. 調査目的
静岡県東部地域(富士川以东)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握 | 3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査 |
| 2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 840社
回答数232(回答率27.6%)
業種別企業数は4ページ下段図表を参照 | 4. 調査対象期間
実績:2005年10～12月期
見通し:2006年1～3月期 |
| | 5. 調査時点
2005年12月 |

売上動向

製造業はプラス幅が拡大、非製造業もプラス判断に転じる

2005年10～12月期の全産業の売上動向DIは6.5（前期▲5.3）と改善され、全産業ベースでDIがプラスに転じた。製造業は食料品、パルプ・紙・紙加工品、金属製品でそれぞれDIの改善がみられ、全体でのDIも8.4（同2.1）とプラス幅がさらに拡大した。一方、非製造業のDIも5.1（同▲10.1）とプラスに転じた。主たる要因は、停滞が続いていた建設業において、DIが▲4.5（同▲31.1）と大幅に改善したことである。

2006年1～3月期（見通し）の予想DIは、全産業で6.1と今期比ほぼ横ばいとなっている。製造業で6.3、非製造業でも5.9といずれも今期比若干の変動にとどまっております、急激な変化は一服すると予測している。

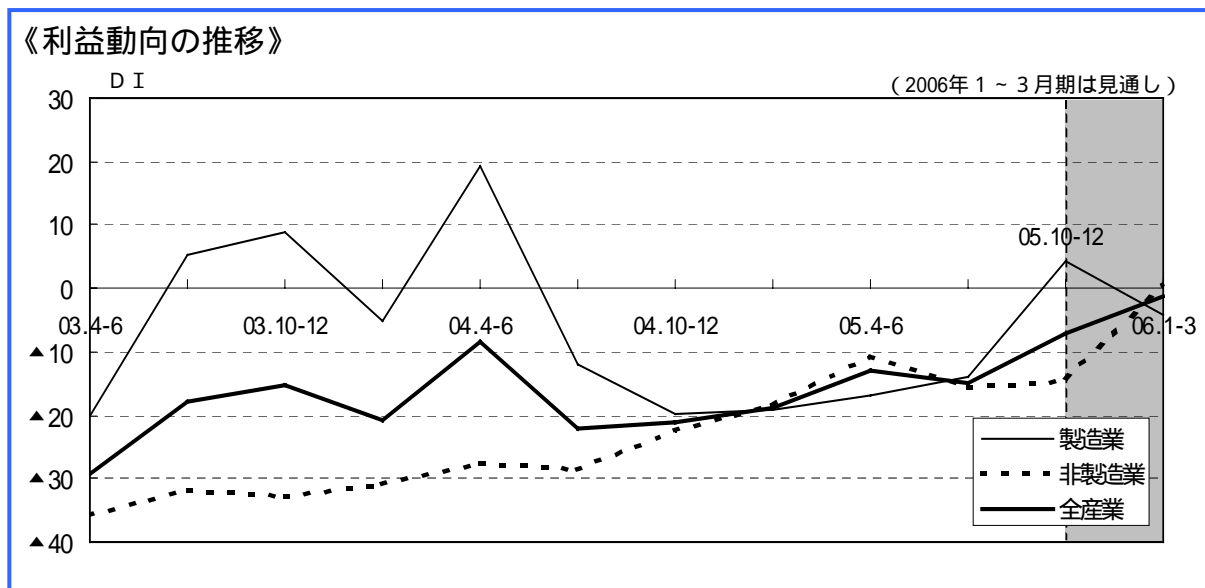


利益動向

製造業はプラス判断に転じるも、非製造業はわずかな上昇にとどまる

2005年10～12月期の全産業の利益動向DIは▲7.0（前期▲14.9）となり、緩やかな改善が継続している。製造業はパルプ・紙・紙加工品がマイナスに転じたが、金属製品、一般機械器具などで大幅な改善がみられた結果、全体で4.3（同▲14.0）とプラス判断に転じた。一方、非製造業は旅館・その他宿泊所でDIが大幅に改善したが、その他小売・サービス業はやや低下し、全体で▲14.7（同▲15.4）とわずかな上昇にとどまった。

2006年1～3月期（見通し）は全産業で▲1.3と今期比上昇しているが、製造業では▲4.3と今期よりも低下すると見ている。一方非製造業は0.7と改善を見込んでおり、両者の見通しは対照的な動きを示している。



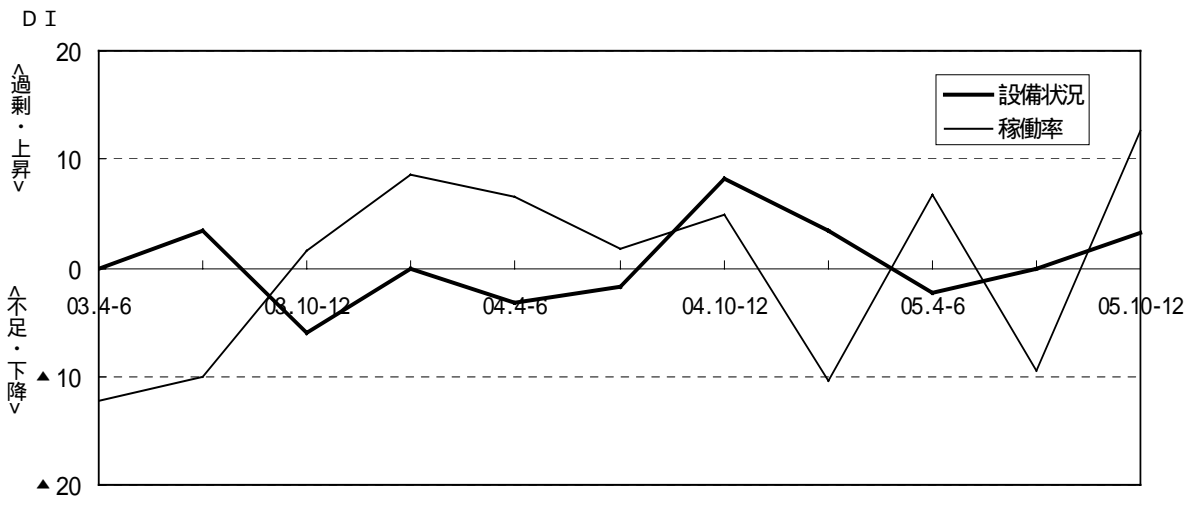
設備状況・稼働率
(製造業)

設備は若干「過剰」状態、稼働率は大幅改善で再び「上昇」

2005年10～12月期の設備状況DIは3.2(前期0.0)と、前期の「適正」から若干「過剰」の判断となった。パルプ・紙・紙加工品で「過剰」感が継続しており、その他製造業も「不足」から「過剰」に転じた。一方、金属製品では「不足」感が継続、一般機械器具は「過剰」から「不足」に転じている。

一方、今期の稼働率DIは12.6(同▲9.6)で、大幅に改善され再び「上昇」判断に転じた。食料品は「低下」の状態が続いているが、それ以外の業種はいずれもDIが上昇し、「上昇」判断になっている。

《設備状況・稼働率の推移》



在庫状況
(製造業)

DIが低下に転じ、在庫過剰感は近年ではもっとも弱まる

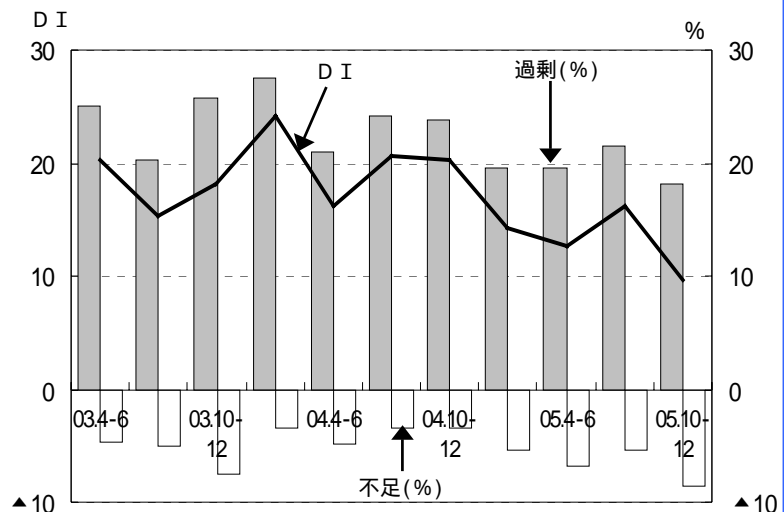
2005年10～12月期の在庫状況(製造業)は、引き続き回答企業全体の約4分の3が「適正」と判断している。また、「過剰」と回答した企業の比率は若干低下、同じく「不足」の比率は若干上昇した。この結果、在庫状況DIは9.6(前期14.6)と低下に転じ、在庫過剰感は近年ではもっとも弱まっている。業種別では、食料品でDIがゼロ＝「適正」状態が継続している他、パルプ・紙・紙加工品、金属製品がいずれも「過剰」から「適正」状態となった。また、一般機械器具でも過剰感は弱まっている。

《在庫状況》

	(前期) 2005年 7～9月期	(今期) 2005年 10～12月期
過剰	21.5%	18.1%
適正	73.1%	73.4%
不足	5.4%	8.5%
DI	16.1	9.6

(%は回答企業の比率)

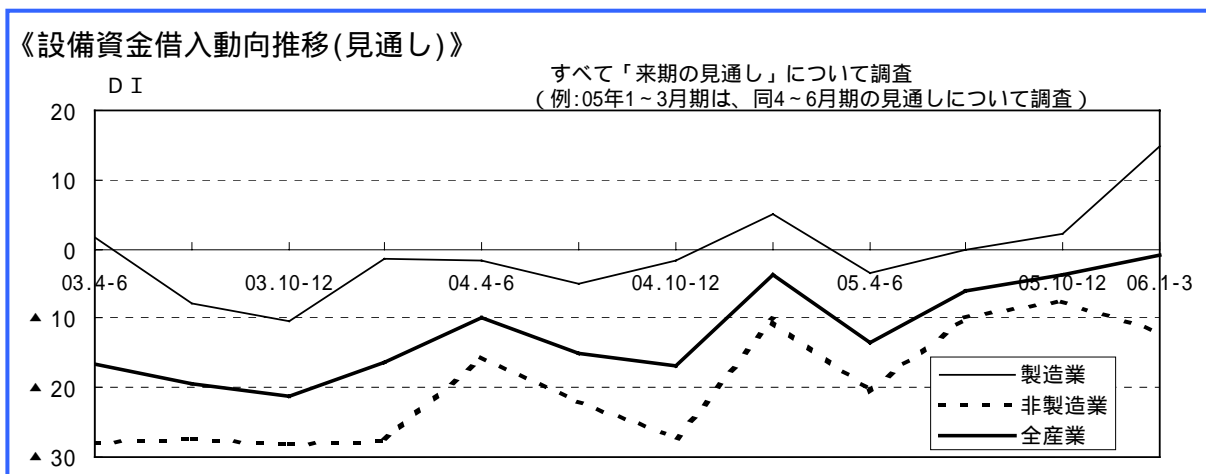
《在庫状況の推移》



設備資金借入
動向(来期)

製造業は借入増加の動き、非製造業は再び借入抑制の傾向

2006年1～3月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)DIは▲0.9(前期▲3.8)とほぼゼロの水
準になり、借入金増加と抑制の動きは拮抗している。うち製造業は14.7(同2.2)とDIが大きく上昇しており、
設備資金借入に積極的な姿勢の企業が増加している。一方、非製造業は▲12.0(同▲7.6)と再びマイナス幅が
拡大しており、借入抑制の動きが根強いことがうかがえる。



経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」の指摘割合が低下、50%を下回る

上位8項目の内容はすべて前期と同じであるが、もっとも多い「受注・売上の停滞・減少」を指摘する割合が
低下し、47.9%と過半数を割った。一方、増加が目立つのは「過当競争・製品安」と「人材の育成」である。業
種別では、製造業では引き続き「原材料・仕入商品の値上がり」が最多、卸・小売・サービス業では「人材の育成」が
「受注・売上の停滞・減少」を上回って最多となった。建設業は引き続き「受注・売上の停滞・減少」と「過当競
争・製品安」の回答が多いが、「原材料・仕入商品の値上がり」も増加傾向にある。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	05年4～6月期		05年7～9月期		05年10～12月期		順位 変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1. 受注・売上の停滞・減少	125	52.7	129	52.9	110	47.4	
2. 過当競争・製品安	99	41.8	99	40.6	99	42.7	
3. 人材の育成	87	36.7	87	35.7	93	40.1	
4. 原材料・仕入商品の値上がり	77	32.5	87	35.7	83	35.8	
5. 生産・販売能力の不足	66	27.8	59	24.2	59	25.4	
6. 従業員の高齢化	48	20.3	53	21.7	47	20.3	
7. 人件費の増加	33	13.9	38	15.6	39	16.8	
8. その他経費の増加	26	11.0	37	15.2	37	15.9	

《業種別：回答企業数およびDI》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	14	▲15.4	▲38.5	0.0	▲38.5	0.0	▲7.7
パルプ・紙・紙加工品	13	15.4	▲7.7	23.1	30.8	0.0	30.8
金属製品	11	36.4	36.4	▲18.2	27.3	0.0	27.3
一般機械器具	15	6.7	14.3	▲6.7	20.0	7.1	13.3
その他製造業	43	7.0	9.3	7.0	16.3	18.6	14.0
製造業計	96	8.4	4.3	3.2	12.6	9.6	14.7
旅館・その他宿泊所	13	23.1	30.8	-	-	-	▲7.7
その他小売・サービス業等	79	7.6	▲10.1	-	-	-	▲2.6
卸・小売・サービス業計	92	9.8	▲4.3	-	-	-	▲3.3
建設業計	44	▲4.5	▲36.4	-	-	-	▲30.2
非製造業計	136	5.1	▲14.7	-	-	-	▲12.0